

問題：次の二つの文章を読み、大学院で研究することの意味について、あなたの考えを 600 字以上、1000 字以下の日本語で述べなさい。なお、特にあなた自身が提出した研究計画と関連させて答えてください。(100%)

【末本文美士 (1997) 『仏教思想』 (日本放送出版協会)】

西欧の伝統がだめで、日本の、あるいは東洋の伝統が正しいというのはあまりに身勝手な論理であり、西欧崇拜の裏返しとしての無批判な東洋主義、日本主義ほど危険なものはない。その論理によって日本のナショナリズムは不幸な戦争へと突入することになったのである。今日の日本の精神状況の行き詰まりを見るとき、重要なことはもう一度我々の中に流れている伝統を反省し、批判していくことではあるまいか。西欧崇拜でもなく、その裏返しの日本主義、東洋主義でもなく、自らのうちなる伝統をきちんと批判的に継承してゆくことができ、はじめて自立的な思想の形成が可能となるのではないだろうか。

【森正人 (2009) 『源氏物語と〈もののけ〉』 熊本大学 知のフロンティア講座 5 (熊本日日新聞社)】

源氏物語は、千年前の作品であるだけに、その時代には自明のことであって現代のわれわれには理解できなくなっているところ、読み取れなくなっているところが少なくありません。その一方で、この作品は、それぞれの時代の読者に応えてさまざまな読み(注)を促し、さまざまな問題意識を受け入れる可能性を持っているともいえます。(中略) その一方で、私たちは八〇〇～八五〇年前の読者が気づかなかったことに気づき、知らなかったことを知り、読めなかった部分を読み解いているとあってよいでしょう。そこにとどまらず、源氏物語の同時代の読者以上の読みが、さらにいえば紫式部の意図以上の読みさえも可能になっているのです。それは、古代の人々が直感的に捉え、直感的に表現したものを、私たちの知識や理論が分析的に捉え直すことができるからです。あるいは、当時の人々にとって自明のことでありすぎて、問題として認識できなかった問題に対して、時間的な隔たりを置くことによってむしろ的確に捉え直すことができると言い換えてもよいでしょう。

注：この場合の「読み」は、作品を解釈すること。